

危険箇所を考える

本プログラムのねらい

○身近な危険箇所を目に向け、子供と一緒に危険について考えることができるように、保護者の危険意識を高めることができる。

期待される効果

○保護者によって危険と感ずる度合いが異なることに気付くとともに、**地域の危険意識を共有することができる。**

活動の主な流れ

運営上の留意点

1 オープニングプログラム「両となり他己紹介&自己紹介」等を行う。(15分)

・自己紹介の際に、経験をもとに危険を感じた場面について簡単に紹介し合う。

▶▶ オープニングプログラム参照

(例) 今日は、地域の中にある身近な危険について考えていきたいと思います。
その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。

2 ワークシートを活用し、それをもとに、グループ内の意見を聞き、自分の意見をまとめる。(20分)

・地域の状況に合わせて、事前にワークシートの項目を変更してもよい。

(例) ワークシート1をご覧ください。
このシートを使って、地域の危険箇所について考えていきたいと思います。
まず、個人で考えてそれぞれの項目にランクをつけてみましょう。時間は5分です。
※時間は、項目数等に応じて適宜設定する。

➡ ワークシート1に記入する。(5分)

(例) グループの中で順番に一人ずつ、自分が付けたランクについて発表してください。
その際、なぜそのランクにしたのか理由をつけて話してください。他の人は、自分がつけたランクの横に、グループの人の名前と発表したランクを書き込みましょう。

➡ グループごとのランクを考える。(15分)

(例) グループ内での発表が終わったところで、今度は相談してグループのランクを決めてください。
その際、グループの全員が納得するランクにすることが条件です。
多数決にしたり、安易に人の意見に流されたりせずに、理由がはっきり言えるようにみなさんでよく考えて決めてください。

3 グループごとにまとめた意見を掲示用の一覧表に記入し、全体の前に貼り出す。(5分)

・掲示用の一覧表は、各グループに一枚、配布しておく。

4 アドバイス資料等を全体で読み合い、自分で考え自分で行動できるようにするにはどうしたらよいかなどについて、考えたことをワークシート等を書く。(5分)

・文部科学省の家庭教育手帳「子どもの安全のために親が工夫しよう」「危険を知ることが、身を守ることにつながる」などをアドバイス資料として配布する。

▶▶ 「エンディングプログラム」参照

(例) いかがでしたか。具体的に皆さんの地域には、どこにどんな危険がありそうですか? 今日の話合いを踏まえて、ワークシート2に書いてみましょう。

